

機関紙『かいな』の  
発行をささえる  
支援カンパに  
ご協力をお願いします



全日本金属情報機器  
労働組合 (JMU)  
日本アイビーエム支部  
東京都港区赤坂 2丁目 200 6  
川瀬ビル 5F 〒107-0052  
TEL.: 03-3583-9037  
FAX.: 03-5562-0853

定価 月 500円

## IBM障害者雇用 法定雇用率に達せず

法定雇用率 18%
1,000人以上規模企業の 平均雇用率 1.9%
日本IBMの雇用率 1.72%

## 社会的責任を果たして いない実態明らか

2010年の「雇用障害者数」実雇用率「厚生労働省では、障害者雇用促進法に基づいて、障害者を雇用しなければならぬ」と定められている。56人以上規模の民間企業では、1.8%とされている。公共団体は、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、法定雇用率に相当する数以上の障害者を雇用しなければならないこととされている。組合は、実態を調査するため厚生労働省に情報開示請求を行いました。その結果、日本IBMは右の表のように法定雇用率を達成せず、社会的責任を果たしていない実態が明らかになりました。

の従業員数、障害者雇用者数、障害者雇用率の開示を会社に求めましたが、当初「開示の義務がない」として拒否されました。そして「法定雇用率を達成している」と虚偽の回答を組合に行いました。会社は、2008年にダイバーシティ・カウンスルの活動を新たに、「女性」「障がい者」「ワークライフ」「GLBT

（ゲイ・レスビアン・バイセクシャル・トランスジェンダー）「マルチ・カルチャー」の5つのイニシアティブを開始したと発表しています。しかし、障害者の法定雇用率は年々悪化しており、イメージ戦略の一つに過ぎない実態です。会社都合で機密情報になる実態



### ちょっと一息

ミュージシャンの卵の組合員Kです。

第九の季節ですねえ。吉松隆という交響曲作曲家が、「音楽ってオカルト現象かもね」と書いてるんですが、第九なんてまさにそれですよ！

今を去ること200年前、ヨーロッパの片隅で一人の男が長大な魔法の言葉を書き遺した。謎の言葉を読み解いたとき、数千人の人間が嗚咽し涙にむせぶという・・・

死んだ男の力が現代によみがえるなんて、まさにオカルトでしょ？

200年前に死んだベートーベンっていう男が書いた楽譜をオーケストラが読み解いて音楽にすると、コンサートホールの数千人の聴衆が感激して涙を流す。「おお、そのときそこには確かにベートーベンその人が降臨していた」なんてね。

皆さん、ベートーベンの亡霊に会いに第九を聴きに行きませんか？（K）

「かいな」新年号は、1月11日発行です。

# 退職強要・人権侵害裁判、山場に 年明けに証人尋問始まる

証人尋問の期日が決まり、いよいよこの退職強要・人権侵害裁判も山場にさしかかっており、かねて折に触れ、裁判の進行状況をお伝えしていきます。

## 退職強要・人権侵害裁判とは？

2008年40のリストラ（会社の言うResource）プログラム・以下、RAPプログラムという）で1500人もの仲間が会社を去っていきましたが、会社が辞めさせようとしたのは、この1500人だけではありません。数千人の社員に対して「退職勧奨」を行い、これを拒んだ社員には様々な形で違法な「退職強要」を

繰り返してきました。そして退職に感じなかった社員に対して、更に「業績改善プログラム」による退職強要を継続してきました。この過程で「心の病」を発症したり、悪化させて無念のうちに「自己都合退職」していた社員も少なくありません。

## 裁判の進行

テレビドramaでは提訴された社員に対して、更に「業績改善プログラム」の始まり、華々しい論戦を繰り広げますが、実際の裁判の進め方はこのようなものではありません。以下は、本裁判の説明です。

## 訴状の提出

原告は裁判を起す理由を訴状という文書にまとめ、裁判所に提出しました。本裁判では「会社から違法な退職強要を受けた人権を侵害された」と、人権を侵害された会社に対し慰謝料の支払と退職強要の差止めを求め、「訴状の内容です。準備書面の交換と意見陳述

被告は「答弁書」という反論をまとめた文書を提出します。それに対して原告が反論の文書を提出します。これらをまとめて準備書面といいますが、この準備書面の交換を公開の法廷で1か月に1回程度の頻度で約1年間続けました。準備書面の交換をとおして、双方の主張とその相違、争点を明らかにします。

この準備書面の交換と並行して、意見陳述が行われました。これは原告が証言台に立つて、自らの心の内を裁判官に語るものです。準備書面は代理人（弁護士）が客観的に事実を主張するものであり、原告は「原告A」と表現されるのに対し、意見陳述では「私」を主語にして、被告の違法行為のためにどのような悲しく辛い思いをしたかを述べます。一部の原告はRAPプログラムの酷さと自らの無念を涙ながらに裁判官に訴えました。

「RAPプログラムは会社交換と意見陳述」原告の訴状に対して、組合は「RAPプログラムは会社



ヨーロッパでは、財政、雇用学費値上げ等問題は異なるが、英、仏、希で今年全国的規模のストライキが行われ、各国の国民が自分達自身の権利を守るために戦う姿がニュースで報道された。それに比べて日本では非正規雇用が拡大し、正規雇用の解雇が行われ、大卒の就職率が最低となつても、自分達に非があると言われ、立ち上がらない。屠殺される家畜のように黙ってただ屠られるだけの日本人とは何か？ 最近「龍馬伝」が終つたが、かつて日本では社会を変えるため多くの無名の人々が命を賭けて国そのものを変えてきた歴史がある。我々は、明治維新を成し遂げた人々の子孫であり、彼らのDNAを受け継ぐ者である。龍馬が現代に生きていればこう言うだろう、「日本の労働者よ、団結して平成維新を起さなければいかんぜよ」と。(M)